

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和2年9月28日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4691700019
法人名	医療法人 松風会
事業所名	松風の里
所在地	鹿児島県志布志市志布志町安楽52番地3 (電話) 099-472-0911
自己評価作成日	令和2年6月25日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和2年9月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年度新しい理念を制定した。松下病院創設者がよく職員に伝えていた言葉の中から、真心を持って利用者・地域の人々に尽くすという意味の「至誠」に決まった。今までであった各階の理念は介護の目標として職員が唱和している。

敷地内に同法人の医院を併設している。医療連携を図るためホームの担当看護師が1週間に1度利用者の検温と状態観察をしており、体調不良や緊急時にはすぐに医院に連絡し、受診が出来る体制が整っている。職員に看護師や准看護師が多数勤務しているため医療面が充実しているため、利用者やご家族から安心されている。

各ユニット毎に毎月行事を計画しており利用者に季節感や楽しみを感じてもらえるように工夫している。その様子をお便りにして毎月ご家族に送っている。

運営推進会議のメンバーに地域の方とご家族に参加して頂き、松風の里の様子をお伝えしている。楽しい報告ばかりではなくヒヤリハットの報告をする事で認知症の方の日常をお伝えするようにしている。年に2回の消防訓練にも参加して頂いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は母体医療機関に隣接し、定期受診や緊急時を含めた24時間医療連携体制を築いており、事業所に多数の看護職員も配置し、健康に配慮した支援を行っている。
- ・事業所全体で統一した理念を基に、ユニット毎の目標を作成し、ユニットの独自性を出している。
- ・運営推進会議出席依頼時に返信用のはがきを同封し、参加者の意見を記入してもらい、運営に反映している。
- ・今年度は、新型コロナウイルス感染症防止対策で家族の面会や外出が困難な状況であるが、家族との電話や手紙等による交流を工夫したり、ユニットの行事等の取り組みを家族にも報告する等、関係の継続に努めている。
- ・処遇改善加算にポイント制を導入し、職員の公平・働きやすさを目標に職員の意見を入れたルールを設けており、やりがいを持って働ける取り組みを導入している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	今年度松風の里全体の理念を至誠として改めた。各ユニット毎に目標があり、リビングのよく見える位置に掲示してある。申し送りの前には必ず勤務者は理念を唱和し業務に入るようにしている。理念に沿ったケアが出来る様カンファレンス時に振り返りを行っている。	当事業所の理念を新たに「至誠」とし、各ユニットは目標を定めて、申送り時に理念や目標を唱和し、カンファレンスでケアを振り返り実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	香月集落に加入し、町内会からの回覧板を回覧し、地域の行事や出来事を把握するようにしている。年間行事の中に香月小学校運動会見物や校区の月見参加、校区文化祭見物などを入れ、昨年は香月小学校運動会と校区文化祭を見に行く事が出来、地域の様子を見学する事が出来た。	町内会に加入し、小学校運動会や文化祭・ボランティアの受け入れ等は、コロナウイルス感染防止の為に現在は控えている。避難訓練時の住民への依頼や野菜の差し入れ等、地域との交流を行っている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	運営推進会議メンバーの中に地域の方々があり、2ヶ月に1回の会議の中で、施設の様子を踏まえながら認知症についての話をするようにしている。又その中で、質問を受ける機会を作り、認知症について知ってもらえるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議の中で、利用者の様子やヒヤリハットの報告、消防訓練後の意見交換を行うようにしている。又、そこで頂いた意見をユニットで報告し、職員全員で共有し今後のサービスに活かすように努めている。</p>	<p>現在は書面による運営推進会議を2ヶ月に1回開催し、ヒヤリハットを含めた事業所の状況報告を行い、電話等で意見交換を実施している。家族の面会制限緩和について、委員の意見を受けて当面キーパーソンのみでの面会とし、今後状況に応じて検討することになっている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者とは日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>分からない事があれば、その都度、介護保険係に連絡し意見を頂くようにしている。又、運営推進会議メンバーの中に介護保険係の方がおり、会議や消防訓練参加を通して施設内の様子を見て頂き、意見をもらうようにしている。</p>	<p>市の関係部署担当者とは、運営推進会議での意見交換したり、出向いて報告や相談を行い協力関係を築いている。市の研修会に参加し、マニュアル作成等の参考にしたこともある。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>1月と7月の年に2回、カンファレンスの中で勉強会を実施し、身体拘束に関する理解を深め職員全体で身体拘束をしないケアに取り組んでいる。又、3ヶ月に1回行われる身体拘束適正化委員会では各ユニットの実情を話し合い、運営会議とカンファレンスで報告するようにしている。</p>	<p>指針を基に、委員会を3ヶ月に1回、研修会を年2回実施している。掻きむしり防止の為、5本指の手袋を使用中の利用者があり、家族の了承や検討会を開催し適正に対処している。日中は玄関の鍵はせずいつでも外に出られるようにしている。帰宅願望への対策はその都度検討し、拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	2月と8月の年に2回、カンファレンスの中で勉強会を実施し、虐待に対する知識を深め、ケアの中で虐待が行われないように職員全体で取り組んでいる。その中で、自分のケアを振り返り考える機会をつくり、意識を高めるようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	利用者の方の中で日常生活自立支援事業の金銭管理サービスを利用したり、成年後見人制度を利用している方がいるため、必要時には勉強会を行い理解できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居時、契約書に添って説明を行い、その中で不安や疑問点をうかがうようにしている。その上で、納得して頂き、サイン・捺印をもらっている。又、その都度疑問があれば対応し、理解して頂けるよう説明するようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議案内のハガキに、自由に意見を書き込んで頂けるようにしてあり、返信されたハガキは職員も見れる様にコピーレユニットへ渡すようにしている。又、面会時何かあれば話を聴くようにし、他の職員へ伝達し改善出来るように努めている。	利用者の要望等については、日常生活の支援中に聞いている。家族には、運営推進会議案内の便りに自由に意見を記入してもらおうようにしたり、面会時に要望等を聞いて、その都度対応を検討している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	各ユニットの管理者がユニットを代表し、月1回の運営会議に出席し、職員の意見があれば、協議事項として挙げ検討するようにしている。決定事項はカンファレンス時、職員に報告したりメールにて確認出来るようにしている。	各ユニットの管理者は話しやすい雰囲気作りに努め、日常の業務の中で職員は個々に提案等を話し合っている。必要事項は法人の運営会議に提出し、反映できるように努めている。急な勤務変更の希望も対応できている。個別相談は管理者が受けて対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	介護処遇改善加算にポイント制を導入し、各個人がやりがいを持って働けるようにしている。又、職員の体力や年齢、家庭事情に応じて勤務時間を調整したり、勤務希望を入れやすくしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員、2人ペアになり年1回お互いを評価し、個々の業務の見直しを行っている。又、年間行事の中に毎月勉強会が組み込まれており、知識を深める事が出来るように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会参加時、他施設の方と積極的に交流を図り、情報交換を行っている。得た情報は、職員へ伝達しサービスの向上に活かすように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前訪問を実施し、本人と面談する事で、直接本人の思いや不安を傾聴するようにしている。そこで本人の知りたい情報を伝えたり、入居時に安心して生活を開始できるよう環境を整える様にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前訪問時、御家族が同席されている時には、不安や要望等をうかがうようにしている。又、施設スタッフからも情報を聞き取り入居と同時に安心して生活を開始できるように努めている。入居当日には担当者会議を実施し、ケアプランの説明と共に要望をうかがい、入居後のサービスに繋げている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前訪問や入居時の担当者会議から得た情報をもとに、本人や御家族が必要としている支援を見極め、サービス提供出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様を人生の先輩として敬い、個々のバックグラウンドと身体的状態を考慮し、スタッフと共に出来ることのお手伝いを楽しみながらして頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>○本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>入居時や面会時にその方の生活背景や性格などの情報をうかがい、お世話や声掛けの工夫に繋げている。歯科受診など他科受診される時には御家族の協力をもらい連れて行って頂いたりしている。又、必要な物がある時には連絡をして持って来て頂いたり、衣替えをしてもらうなどして、御本人の様子を知ってもらえるように協力して頂いている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>御本人や御家族からの情報で生活背景を知り、行事などで外出した際には、その場所に行ったり、車で通るなど可能な限りの支援を行っている。</p>	<p>家族等と居室でお茶を飲みながら歓談したり、墓参りや理美容室等の外出を行っていたが、現在はキーパーソン以外の面会は制限し、電話や手紙での交流を主に支援している。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>利用者様一人一人の性格や身体的状態を考慮し、お互いが自由に語りあえるような席に座って頂いている。又、寝たきりの方もリビングへ離床を行い、他者の会話や音を聞き、いつでも声掛け出来る環境を作っている。コミュニケーションがとりにくい方は、スタッフが入り声掛けを行うなど、孤立しないように支援している。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>サービス終了後も、御家族が立ち寄られた際には話を聴き、必要があれば相談に応じるようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時や担当者会議の時に、本人や御家族から、ここでどのように暮らしていきたいのか要望を聞き、ケアプランに記し支援している。又、意思表示の困難な方は生活背景や接する中で本人の思いを汲み取り、意向の把握に努めている。	日常の会話や支援の中で、本人の思いを把握するように努めている。困難な場合は、家族の情報や入居後の利用者へのかかわりの中から推測し、本人の思いを汲み取るようにして支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	自宅から来られた方は、本人・御家族から生活背景を聴き取り、他施設から来られた方は施設職員やサマリーなどからも情報を得るようにしている。又、親戚などの面会時にも話をうかがったり、日ごろの会話の中からこれまでの様子を思い出して頂き、把握出来るよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、お世話する中で変化する一人一人の状態を注意深く観察し、申し送りやカンファレンスで伝えるようにしている。又、医療機関の受診や医療連携看護師からの情報も他職員へ伝え、現状の把握が出来る様努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各受持ち担当者の職員が、毎月カンファレンスの前にモニタリングを行い、それを元にカンファレンスで課題を話し合い、介護計画に反映させている。又、6ヶ月ごとに、本人・御家族・ケアマネ・計画作成担当者が参加し担当者会議を実施している。そこで、現状を踏まえケアプランの説明を行い、御家族からの意見もうかがい、ケアプランに活かすようにしている。	担当者会議には本人・家族・施設長・担当職員が参加し、本人及び家族の意見を組み込んだ介護計画を作成している。モニタリングは毎月実施し計画に反映している。6ヶ月毎及び状況変化時には計画を見直し、現状に即したものになるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日各勤で日々の様子を個人用の台帳に記録している。又、ケアプランに添った記録になるように、台帳にケアプランを挟み込みいつでも見れる様にしてある。医療面やヒヤリは色を変え記入しており、医療連携看護師の記録やヒヤリは別紙があり見やすくしてある。1ヶ月単位でケアチェック表が記入しており、一目で様子がわかる様になっており、ケアプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人で家族の状況、その時々にも生じるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・御家族が希望すれば、施設職員が散髪を行っている。又、御家族の状況を考慮し、買い物代行や、他科受診の付き添い、送迎を行うなど可能な範囲で希望に添えるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くのコスモス畑に見物に行ったり、志布志のお祭りの御釈迦祭りを見に行くなど楽しんで頂けるようにしている。又、消防訓練には地域の方々がおられる推進会議メンバーや消防署の方に参加して頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、本人・御家族の要望を聞き、同敷地内に併設されている医院をかかりつけ医としている。定期や臨時の受診時は施設内看護師が付き添って行い、又急変時など医院との連携を図り早急な対応が行える様にしてしている。又、その都度御家族への連絡も行ない様子を伝えるようにしている。	入居時に本人・家族の希望を確認し、全員、母体医療機関をかかりつけ医としている。2週間に1回の定期受診は事業所の看護職員が同行し、専門医受診は家族対応である。歯科の往診や緊急時を含め24時間医療連携で適切な医療を支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>日々のお世話の中での気づきや、朝のバイタル測定時の異常など、その都度看護職員に報告すようにしている。又、介護職員は看護職員から基礎的な知識を学び、異常の早期発見に繋げようとしている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>利用者様が入院の必要な状況になった時には、御家族へ連絡し施設職員が付き添って行くようにしている。その際、医院からの診療情報提供書やホームサマリーを持参し情報を提供するようにしている。入院が長くなった時には、御見舞いとうかがい、情報を得ながら退院の時期など連絡調整するようにしている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時、本人・御家族へ「重度化した場合の対応に関する指針」の説明を行い理解して頂いている。状態に変化があった場合はその都度かかりつけ医より御家族に病状説明を行い、今後の方針について話し合うようにしている。また、医院看護師へも相談し協力をもらいながら可能な限りの支援がホームで行えるように努めている。</p>	<p>入居時に、指針で説明し同意書を得られている。状況の変化に応じて段階的に主治医から説明すると共に、家族の意向を確認している。家族の意向に沿って支援に取り組んでおり、看取り介護の事例がある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>2階リビングにAEDが設置してある。職員はAEDやアンビュー、吸引器の場所を把握しており必要時直ぐ持って来られる様にしている。また、急変時や事故発生時に早急に動けるように事故発生時のフォローチャート、事故後の流れが全職員の見える場所に貼ってある。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回（5月・11月）近隣の方も参加している運営推進会議のメンバーにも協力して頂き、消防訓練を行っている。うち、1回（11月）は消防署立ち合いにて直接指導を受け、参加メンバーからも意見を頂き迅速に行動できるように努めている。</p>	<p>年2回住民の協力を得て火災避難訓練を実施し、運営推進会議を兼ねている。1回は消防署の立ち合いがある。緊急通報装置へ近隣住民の登録や訓練時の利用者の見守り等、地域の協力体制を築いている。スプリンクラーや防火扉の設備があり、メガホン・ライト付きヘルメットを準備している。非常用の水や米・缶詰・カップラーメン等を備蓄している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心を傷つけないよう、言葉遣いや態度には十分配慮しながら日々接している。また、排泄時や入浴時はプライバシーの保護に努めながら、声掛けを行ったり他の利用者の方から見えないように配慮している。	日頃からひとり一人の誇りやプライバシーを損ねない言葉遣いに気を付け、排泄介助時は声掛けやドアを閉めるなど羞恥心へも配慮している。申送りは利用者がいない時間帯に実施し、プライバシー保護に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴やトイレ誘導する際は十分な声掛けを行い意思を確認するようにしている。また、ティータイム時は、飲み物やお菓子を選んで頂いている。歩行される方が急に立ち上がった時や話をする時は話を聞き自己決定が出来るように配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活パターンや行動を把握し、入浴などは順番を考慮している。食事後の過ごし方など本人の気持ちを優先し日々楽しく過ごせる様働きかけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	起床時は櫛で髪をといたり、本人に確認したうえで必要時にはスタッフが散髪をしたりして身だしなみを整えている。また、入浴後に化粧品を持っている方は化粧道具を使用してお化粧をして頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	味見をして頂いたり、調理方法を教えて頂くなど一緒に楽しみながら食事の手伝いをして頂いている。また、季節ごとに旬な食材を用いたり、行事の時などは出前やバイキング昼食など好みのメニューを取り入れる事で食べる楽しみが持てる様になっている。	献立は職員が作成し、個々に応じた食事形態で提供している。お盆拭き等を一緒にしたり食事を楽しんでもらえるように、誕生会の特別メニューやバイキング・出前等を計画している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	状態に応じて食事の量を調整したり、ブレンダー食・トロミ食・キザミ食にするなどその方にあった食事形態にしている。また、食事摂取量が少ない方にはかかりつけ医に相談し経腸栄養剤を処方してもらったり本人の嗜好品を取り入れる事で栄養が取れるようにしている。1日の摂取状況はケアチェック表に記入しわかるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、状態に合わせてブラシやガーゼを使用し口腔ケアを行っている。ブラッシングが難しい方は洗口剤を使用しうがいをして頂いている。。また口腔内の観察を行い必要な時は御家族に連絡し歯科受診を勧めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者様の尿量など考慮しパットの種類を選定している。また、排泄パターンを把握し個々の状況に応じてパット交換やトイレ誘導を行ったり、立位保持が難しい方でもトイレ誘導を行い、トイレで気持ち良く排泄が出来るようにしている。	排泄チェック表でパターンを把握し、オムツ使用の利用者も日中はトイレでの排泄を基本に支援している。適切な排泄用品の使用を検討している。夜間は、状況に応じてポータブルトイレやオムツを使用する利用者もいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘傾向のある方は特に水分補給を促し腹部マッサージや、かかりつけ医に相談し下剤の調整をしている。また、排便状態が分かるように排便チェック表を使用している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	3回/週入浴を実施している。利用者様に応じて入浴時間や湯温の調整を行い、快適な環境で入浴できるよう、季節に応じて浴室の温度を調整している。また、プライバシーの保護に注意し、会話をしたり音楽をかけたりに楽しみながら入浴できるよう努めている。又、声掛けの工夫やタイミングを見ながら、気持ち良く入浴して頂けるよう支援している。	週3回午前中の入浴を基本に支援している。特別浴でひとり一人新しいお湯を入れ替えてゆっくり楽しんでいる。身体状況による清拭や保清目的の入浴等、必要に応じて実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人1人身体状況に応じて居室にてゆっくり過ごせる時間を考慮している。日中は活動を促し傾眠傾向のある方にはかかりつけ医に相談し眠剤を処方して頂き、夜間良く休んで頂き日中活動的に過ごせる様支援している。また、季節ごとに温度・湿度を調整し気持ち良く休める様支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の変更時は申し送りを行いスタッフが周知できるようにしている。誤薬がない様職員同士声掛けやチェックをしたり、薬のケースなど工夫している。お薬手帳や薬情はいつでも確認できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力や希望をふまえ洗濯物たたみ・モップ掛け・お盆拭き等のお手伝いをして頂いている。月に1回行事を行い、それ以外にも日光浴や散歩を行ったり、好きな音楽を聴いたりTV番組等を観賞したりして気分転換が図れるよう努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	体調や希望に応じ散歩や日光浴を行っている。また、スタッフと一緒に近くのパン屋やコンビニに買い物に出掛けたり、コスモス見学やアジサイ見学など外出する機会を作っている。帰宅願望のある利用者様には御家族にも協力を頂き外出や外泊をして頂いている。	現在は、受診時に敷地内を散歩したり、畑を見物している。年間で、季節の花見や運動会・文化祭・駅伝応援・地域の十五夜・外食等の外出を計画している。帰宅願望の強い利用者には、家族の協力を得て外出してもらうこともある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御家族や本人の希望に応じ預かり金を頂いている。スタッフと一緒に買い物などに出掛けた際、出来る方はお金を渡したり、おつりを受け取って頂いたりとお金を持つ事の大切さが理解できるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	本人が希望され御家族が了解された時は直接電話で話をして頂いている。手紙が届いた時には本人に渡し読んで頂いたり、スタッフが読み聞かせを行い、御家族へも手紙が届いた事を電話にて報告している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>リビングには季節ごとに花を飾ったり、壁飾りを作る事で季節を感じて頂き楽しめるようにしている。また廊下には各月ごとに行った行事の写真を掲載し、利用者の方や御家族の方がいつでも見る事が出来、ホームでの様子がわかるようにしている。介護度の重い方でも居室での時間が有意義に過ごせる様音楽をかけたり、ラジオをつけたりしている。毎日、共同スペースや居室等環境整備を行ったり月に1度は環境整備の日を設けて念入りに清掃する事で清潔を保てるようにしている。</p>	<p>リビングは日当たりが良く、換気や室温等の調整及び清潔にも配慮し過ごしやすい室内環境である。利用者間に設置しているシールドや壁飾りは季節感を味わえるように工夫している。利用者は、好きな場所でくつろいでいる。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>利用者様一人一人が居心地よくリビングで過ごせるよう、会話が好きな方同士座って頂いたり、テレビを見たりするのが好きな方はテレビの近くに座って頂くなど、性格や状態を考慮し利用者様同士トラブルがない様席を決めている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時にタンスや衣装ケース、使い慣れた好みの寝具など持って来て頂いている。また、本人の希望があり御家族の方の了解があればテレビやラジカセ、小説や写真など持って来て頂いている。設置に関しては本人と話し合い、スタッフと一緒に過ごしやすい安全な位置に設置できるようにしている。</p>	<p>居室には電動ベッドと流し台・エアコンを備えている。本人の好みや必要に応じて、テレビやラジオ・タンス等を持ち込んだり、ぬいぐるみや絵・写真・遺影等を飾っている。ベッド等の設置場所を変更する等、本人が落ち着いて過ごせる部屋作りを工夫している。</p>	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>トイレには手すりが設置してあり立位保持が可能な方は起立訓練を踏まえながらトイレへの移動ができるようにしている。また廊下にも手すりが設置してある。御家族や本人の了解を得て居室入口に名前を貼り、居室がわかる様にしている。</p>			

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない